

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	平成30年9月27日
【事業年度】	第63期（自平成29年7月1日至平成30年6月30日）
【会社名】	サイタホールディングス株式会社
【英訳名】	SAITA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 才田 善之
【本店の所在の場所】	福岡県朝倉市下湊472番地
【電話番号】	0946(22)3875
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 平山 繁之
【最寄りの連絡場所】	福岡県朝倉市下湊472番地
【電話番号】	0946(22)3875
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 平山 繁之
【縦覧に供する場所】	証券会員制法人福岡証券取引所 (福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第 59 期	第 60 期	第 61 期	第 62 期	第 63 期
決算年月	平成26年6月	平成27年6月	平成28年6月	平成29年6月	平成30年6月
売上高 (千円)	4,542,947	4,406,388	3,986,853	4,516,527	5,532,531
経常利益又は経常損失 (千円)	148,292	128,529	131,042	239,195	587,791
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 (千円)	171,980	77,330	175,104	134,935	321,984
包括利益 (千円)	181,780	62,354	184,749	154,421	324,660
純資産額 (千円)	2,083,441	2,126,798	1,923,133	2,077,554	2,383,243
総資産額 (千円)	5,335,353	5,048,289	4,850,026	5,363,752	6,032,670
1株当たり純資産額 (円)	3,304.06	3,373.04	3,050.04	3,294.95	3,779.96
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失 (円)	272.69	122.64	277.71	214.00	510.68
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	39.0	42.1	39.7	38.7	39.5
自己資本利益率 (%)	8.6	3.7	8.6	6.7	14.4
株価収益率 (倍)	8.6	12.6	-	6.9	5.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	474,504	66,562	65,717	669,118	585,176
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	456,000	138,267	80,570	195,604	326,776
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	101,107	269,541	112,793	43,880	8,603
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,084,488	786,994	842,559	1,292,614	1,559,048
従業員数 (人)	239	243	241	246	247

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、平成26年6月期、平成27年6月期、平成29年6月期及び平成30年6月期は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。平成28年6月期は、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 株価収益率は、平成28年6月期は、親会社株主に帰属する当期純損失であるため記載しておりません。

4. 当社は、平成30年1月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。平成26年6月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失()を算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第 59 期	第 60 期	第 61 期	第 62 期	第 63 期
決算年月	平成26年6月	平成27年6月	平成28年6月	平成29年6月	平成30年6月
売上高 (千円)	279,786	274,939	200,023	286,204	361,896
経常利益又は経常損失 (千円)	16,543	31,554	68,610	93,600	111,732
当期純利益又は当期純損失 (千円)	5,856	15,211	181,089	31,686	15,452
資本金 (千円)	942,950	942,950	942,950	942,950	942,950
発行済株式総数 (株)	6,610,000	6,610,000	6,610,000	6,610,000	661,000
純資産額 (千円)	1,734,345	1,722,278	1,472,749	1,536,493	1,539,046
総資産額 (千円)	4,120,232	3,903,616	3,613,255	3,698,804	3,874,575
1株当たり純資産額 (円)	2,750.44	2,731.49	2,335.74	2,436.84	2,441.02
1株当たり配当額 (円)	3	3	-	3	40
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失 (円)	9.29	24.13	287.20	50.26	24.51
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	42.1	44.1	40.8	41.5	39.7
自己資本利益率 (%)	0.3	0.9	11.3	2.1	1.0
株価収益率 (倍)	253.0	-	-	29.5	112.2
配当性向 (%)	323.0	-	-	59.7	163.2
従業員数 (人)	12	12	13	14	16

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、平成26年6月期、平成29年6月期及び平成30年6月期は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、平成27年6月期及び平成28年6月期は、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 株価収益率及び配当性向は、平成27年6月期及び平成28年6月期は、当期純損失であるため記載しておりません。

4. 当社は、平成30年1月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。平成26年6月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失()を算定しております。

2【沿革】

大正12年 1月	福岡県朝倉郡安川村（現福岡県朝倉市下淵）において才田組を創業
昭和24年10月	建設業法による福岡県知事登録
昭和30年12月	個人企業を株式会社組織に改め、土木・建築請負業を目的として資本金200万円をもって、株式会社才田組を設立
昭和31年10月	福岡県甘木市大字持丸（現福岡県朝倉市持丸）に砕石場を開設
昭和39年 3月	建設業法による建設大臣登録
昭和43年 2月	石油販売事業を開始
10月	砂利採取業法による福岡県知事登録
昭和46年11月	採石法による採石業者登録
12月	本店を福岡市博多区に移転
昭和49年 4月	改正建設業法による建設大臣許可
12月	砕砂設備を新設
昭和51年11月	子会社有限会社賀和運送を設立
昭和55年 7月	賀和興産株式会社に石油販売事業を譲渡
昭和56年 7月	賀和興産株式会社に砕石販売事業を譲渡
昭和59年 2月	シンガポール共和国において砕石事業を開始（昭和60年 9月撤退）
昭和61年 2月	パキスタン回教共和国において建設事業を開始
昭和62年 3月	子会社立花建設有限会社を設立
12月	宅地建物取引業法による福岡県知事免許取得
平成元年 3月	福岡本店新社屋完成、1階を本店事務所、2階から9階を賃貸マンションとして営業する
6月	砕砂設備を増設
平成 3年 7月	賀和興産株式会社より砕石販売事業、石油販売事業の営業を譲受
平成 4年10月	パキスタン回教共和国においてインダスハイウェイ 6工区工事を受注
平成 5年11月	パキスタン回教共和国においてインダスハイウェイ 1工区工事を受注
平成 6年 7月	福岡証券取引所に株式を上場
平成 9年 7月	砕石プラントAライン完成
10月	インダスハイウェイ 6工区工事完成、引渡し完了
平成10年 7月	砕石プラントBライン完成
	インダスハイウェイ 1工区工事完成、引渡し完了
平成12年 5月	通商産業省（現経済産業省）より、平成11年度優良事業所として表彰（砕石事業部）
7月	厚生省（現厚生労働省）より産業廃棄物処分業（廃コンクリート処理施設）許可
平成13年 2月	酒類卸売販売業免許取得
平成14年10月	ISO9001（2000）認証取得
平成15年12月	酒類小売販売業免許取得
平成18年 1月	持株会社制に移行し会社名をサイトホールディングス株式会社に変更、本店を福岡県甘木市大字下淵（現福岡県朝倉市下淵）に移転 会社分割により株式会社才田組、才田砕石工業株式会社、フエフーズ・ジャパン株式会社、株式会社サイテックス（いずれも連結子会社）に事業を承継
平成22年 7月	HUE FOODS COMPANY LIMITED（現・連結子会社）の出資権取得
平成27年 9月	HUE FOODS COMPANY LIMITED（連結子会社）の販売部門を分社化し、SAITA TRADING COMPANY LIMITEDを設立（連結子会社）

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、サイタホールディングス株式会社（当社）、子会社9社及び関連会社1社により構成され、建設事業、砕石事業を主な事業としており、この他、酒類製造販売、石油製品販売、不動産事業、太陽光発電事業、環境事業、警備事業及び乳酸菌事業を行っております。当社グループの事業に係わる位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

なお、事業区分はセグメントと同一であります。

建設事業

株式会社才田組、立花建設有限会社（いずれも連結子会社）は、土木工事等の受注・施工を行っております。

また、有限会社賀和運送（連結子会社）が、上記土木工事に係る運搬業務を行っております。

○ 砕石事業

才田砕石工業株式会社（連結子会社）は砕石の製造販売を行っております。また、有限会社賀和運送（連結子会社）は、砕石製品の運搬業務や砕石場内作業を行っております。

○ 酒類事業

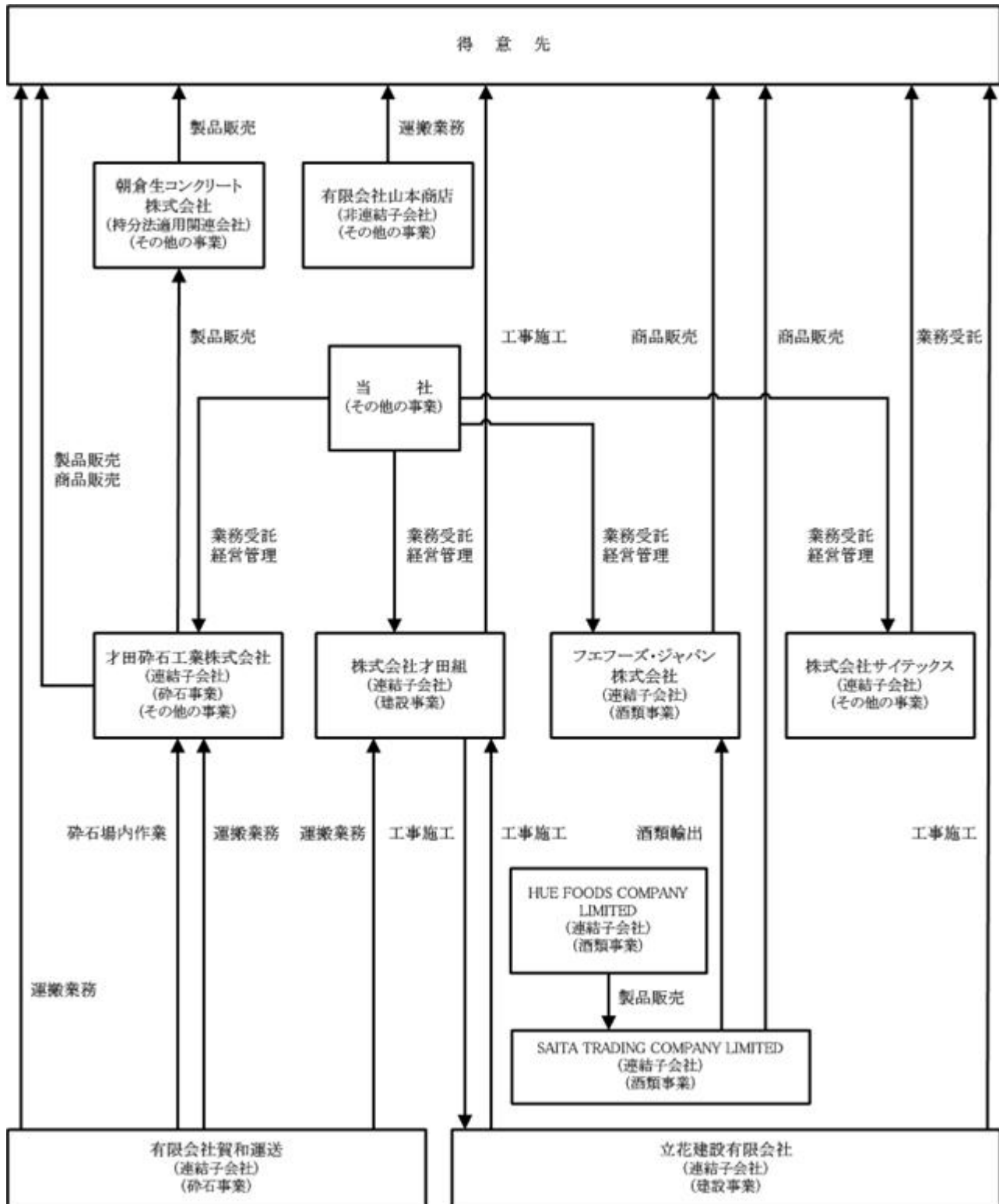
HUE FOODS COMPANY LIMITED（連結子会社）は、ベトナム社会主義共和国で酒類等の製造、SAITA TRADING COMPANY LIMITED（連結子会社）は、同国において酒類等の販売を行っております。また、フエフーズ・ジャパン株式会社(連結子会社)は、HUE FOODS COMPANY LIMITED（連結子会社）で生産された焼酎等の商品の輸入卸及び小売販売を行っております。

その他の事業

当社は不動産賃貸業及び太陽光発電事業を行っております。

また、才田砕石工業株式会社（連結子会社）は、石油製品販売を行い、株式会社サイテックス（連結子会社）は環境事業、警備事業及び乳酸菌事業を行っております。他に持分法適用関連会社である朝倉生コンクリート株式会社は、生コンクリートの製造・販売を営んでおります。また、有限会社山本商店（非連結子会社）は、一般建設資材の運搬業務を行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業内容	議決権の所 有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社才田組 (注3、4)	福岡市博多区	100,000	建設事業	100	設備の賃貸 役員の兼務 2名
才田砕石工業株式会社 (注3、4)	福岡県朝倉市	100,000	砕石事業 その他の事業	100	設備の賃貸 役員の兼務 2名
フエフーズ・ジャパン 株式会社 (注3)	福岡市博多区	100,000	酒類事業	100	設備の賃貸 資金援助 役員の兼務 1名
HUE FOODS COMPANY LIMITED (注3)	ベトナム社会 主義共和国	32,637 百万VND	酒類事業	100	資金援助 役員の兼務 1名
SAITA TRADING COMPANY LIMITED	ベトナム社会 主義共和国	1,000 百万VND	酒類事業	100 (100)	資金援助
株式会社サイテックス	福岡県朝倉市	55,000	その他の事業	100	設備の賃貸 資金援助 役員の兼務 1名
有限会社賀和運送	福岡県朝倉市	23,000	建設事業 砕石事業 その他の事業	100	役員の兼務 1名
立花建設有限会社	福岡県小郡市	20,000	建設事業	100 (100)	資金援助
その他1社					
(持分法適用関連会社) 朝倉生コンクリート 株式会社	福岡県朝倉市	45,000	その他の事業	19.8 [2.3]	役員の兼務 1名

- (注) 1. 主要な事業内容欄には、セグメントの名称を記載しております。
 2. 議決権の所有割合の [] 内は、緊密な者又は同意している者の所有割合で外数となっております。
 3. 特定子会社であります。
 4. 株式会社才田組及び才田砕石工業株式会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	株式会社才田組	才田砕石工業株式会社
(1) 売上高	2,727,689千円	1,901,952千円
(2) 経常損益	258,019千円	159,694千円
(3) 当期純損益	150,148千円	91,843千円
(4) 純資産額	668,071千円	605,376千円
(5) 総資産額	1,619,653千円	1,028,235千円

5. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年6月30日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
建設事業	48
碎石事業	86
酒類事業	74
その他の事業	23
全社(共通)	16
合計	247

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成30年6月30日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
16	52.8	19.1	4,359,880

セグメントの名称	従業員数(人)
全社(共通)	16
合計	16

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満のうちに推移しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ。）が判断したものであります。

(1) 経営方針

当社グループは、「企業の安定と成長」「従業員の幸福」「地域社会への貢献」という経営理念を掲げ、当社グループの行う事業を通してこれを具現化していくことを大きなテーマとしております。

当社グループの主要な経営の柱である建設事業及び砕石事業は、共に社会資本整備に寄与する産業であります。これからも時代環境の変化に対応した考え方により、地域社会に貢献し、株主及び従業員から信頼される企業を目指しております。

また、当社グループ各社が機動的に経営活動を行うことにより、当社グループの成長に寄与していきたいと考えております。

(2) 経営環境

当社グループの主力事業であります建設事業及び砕石事業は、公共投資、民間設備投資は堅調に推移しているものの、資材価格や労務費、運搬費の高止まり、熾烈な受注競争は依然として続いており、経営環境は不透明な状況であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社グループでは、「建設事業における受注の確保」、「砕石事業における売上確保」、「酒類事業及び環境事業を次のビジネスの柱に育成」、「持株会社化による事業の効率化・最適化」を対処すべき経営課題として捉えております。

グループ企業が一体となって経営基盤の安定を図るとともに、建設事業におきましては、新工法の営業強化及び低コスト・施工管理能力・技術提案力のより一層の向上、砕石事業におきましては、生産効率及び省電力化を追求した製造原価の低減並びに販路拡大、酒類事業及び環境事業におきましては、経営資源の効率的な配分による収益基盤の確立等に取り組み業績向上に寄与するよう邁進していく所存であります。

2【事業等のリスク】

当社グループの事業に関するリスクについて、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項には、以下のようなものがあります。なお、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

事業環境の変化

想定を上回る建設需要の減少が生じた場合には、業績等に影響を及ぼす可能性があります。

金利水準の変動

金利水準の急激な上昇が生じた場合、業績等に影響を及ぼす可能性があります。

取引先の信用リスク

売上代金を回収する前に取引先が信用不安に陥った場合、業績に影響を及ぼす可能性があります。

退職給付債務

年金資産の時価の下落及び運用利回りが悪化した場合、業績に影響を及ぼす可能性があります。

製品及び商品の欠陥

品質管理には万全を期しておりますが、瑕疵担保責任及び製造物責任による損害賠償が発生した場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

資産保有リスク

営業活動上の必要性から、不動産・有価証券等の資産を保有しているため、時価の変動により、業績に影響を及ぼす可能性があります。

建設事業や砕石事業に対する法的規制

建設事業や砕石事業の遂行には、建設業法、建築基準法、労働安全衛生法、砕石業法、林地開発規制法等による法的規制を受けており、これらの法規の改廃や新たな規制等が行われた場合、また、これらの法的規制により行政処分等を受けた場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

資材価格や原油価格等の変動

原材料の価格や原油等の価格が大きく変動した場合において、請負価格や商・製品価格に反映することが困難な場合は、業績に影響を及ぼす可能性があります。

為替変動リスク

連結子会社8社中2社が在外子会社であり、また、株式会社才田組が海外工事を受注する場合があります。従って、為替の動向によっては、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における我が国の経済は、政府や日銀による経済・金融政策等を背景に企業収益や雇用情勢は改善傾向にありますものの、米国を主体とする貿易摩擦や欧州各国政権の不安定化、東アジアでの地政学的なリスクの継続等により、景気・経済の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループ（当社及び連結子会社及び持分法適用会社）の主力事業であります建設業界は、公共投資、民間設備投資は堅調に推移しているものの、資材価格や労務費の高止まりによる工事収益率の低下や熾烈な受注競争は依然として続いており、経営環境は不透明な状況であります。

このような状況のもと、当社は、経営の二本柱であります建設事業及び碎石事業におきましては、新工法の導入や新製品の開発に取り組むとともに積極的な営業活動を推進してまいりました。また第三の柱となるべき酒類事業、環境事業におきましても当社グループ経営に寄与すべく収益改善に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

(イ) 財政状態

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度に比べ6億6千8百万円増加し、60億3千2百万円となりました。

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度に比べ3億6千3百万円増加し、36億4千9百万円となりました。

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度に比べ3億5百万円増加し、23億8千3百万円となりました。

(ロ) 経営成績

当連結会計年度の経営成績は、売上高55億3千2百万円（前連結会計年度比22.5%増）となりました。

損益面におきましては、売上高の増加及び売上原価率の改善等により売上総利益13億7千2百万円（前連結会計年度比57.5%増）、営業利益5億4千9百万円（前連結会計年度比194.6%増）、経常利益5億8千7百万円（前連結会計年度比145.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益3億2千1百万円（前連結会計年度比138.6%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(建設事業部門)

建設業界は依然として厳しい環境にありますものの、全社一体となって受注活動に努めてまいりました結果、当連結会計年度の受注高は24億4千7百万円（前連結会計年度比13.3%減）となりました。

受注工事の主なものは、赤谷川緊急復旧（その5）工事、(有)本川牧場伏木育成牧場新築工事、大野城市御笠川4丁目 400mm配水管布設工事であります。

また、完成工事高は29億8千万円（前連結会計年度比34.7%増）となりました。

損益面では、厳しい受注競争のもと、グループ挙げて工事原価の削減に努めた結果、営業利益3億7千9百万円（前連結会計年度比176.2%増）となりました。

(碎石事業部門)

碎石事業は、建設業界全般が依然として厳しい状況の中、新製品開発に取り組むとともに積極的な営業活動を展開してまいりました結果、当連結会計年度の売上高は18億4千4百万円（前連結会計年度比17.7%増）、営業利益は3億8千3百万円（前連結会計年度比86.5%増）となりました。

(酒類事業部門)

酒類事業の当連結会計年度の売上高は2億8千9百万円（前連結会計年度比10.0%増）、営業損失3千6百万円（前連結会計年度は3千3百万円の営業損失）となりました。

(その他の事業部門)

その他の事業は売上高4億1千7百万円（前連結会計年度比11.9%減）、営業利益は2千2百万円（前連結会計年度比24.6%減）となりました。

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益及び減価償却費の計上のほか、仕入債務の増加、売上債権の増加等により、5億8千5百万円の収入（前年同期は6億6千9百万円の収入）となりました。
 投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形固定資産の取得による支出により、3億2千6百万円の支出（前年同期は1億9千5百万円の支出）となりました。
 財務活動によるキャッシュ・フローは、主に長期借入による収入、長期借入金の返済による支出により8百万円の収入（前年同期は4千3百万円の支出）となりました。
 この結果、現金及び現金同等物は2億6千6百万円増加し、期末残高は15億5千9百万円となりました。

生産、受注及び販売の実績

(イ) 生産実績

セグメントの名称	前連結会計年度	当連結会計年度	前年同期比 (%)
砕石事業 (千円)	1,471,492	1,735,683	118.0

(注) 1. 金額は販売価格によっております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(ロ) 受注実績

セグメントの名称	前連結会計年度	当連結会計年度	前年同期比 (%)
建設事業 (千円)	2,824,018	2,447,974	86.7

(注) 1. 当社及び連結子会社では建設事業以外は受注生産を行っておりません。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(ハ) 売上実績

セグメントの名称	前連結会計年度	当連結会計年度	前年同期比 (%)
建設事業 (千円)	2,212,091	2,980,471	134.7
砕石事業 (千円)	1,566,981	1,844,679	117.7
酒類事業 (千円)	263,051	289,426	110.0
その他の事業 (千円)	474,402	417,954	88.1
合計 (千円)	4,516,527	5,532,531	122.5

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

なお、参考のため株式会社才田組（建設事業）の事業の状況は次のとおりであります。

建設事業における受注工事高及び施工高の実績

a. 受注工事高、完成工事高、繰越工事高及び施工高

項目	工事別	前期繰越 工事高 (千円)	当期受注 工事高 (千円)	計 (千円)	当期完成 工事高 (千円)	次期繰越工事高			当期施工高 (千円)
						手持工事高 (千円)	うち施工高		
							比率 (%)	金額 (千円)	
第62期 (自 平成28年7月 1日 至 平成29年6月30日)	土木	495,158	2,166,666	2,661,824	1,612,973	1,048,851	-	-	1,612,973
	建築	516,331	407,054	923,385	396,359	527,025	-	-	396,359
	計	1,011,489	2,573,720	3,585,210	2,009,332	1,575,877	-	-	2,009,332
第63期 (自 平成29年7月 1日 至 平成30年6月30日)	土木	1,048,851	1,963,207	3,012,059	1,939,787	1,072,271	-	-	1,939,787
	建築	527,025	269,056	796,082	787,901	8,181	-	-	787,901
	計	1,575,877	2,232,264	3,808,141	2,727,689	1,080,452	-	-	2,727,689

(注) 前期以前に受注した工事で、契約の更改により請負金額に変更のあるものについては、当期受注工事高にその増減額を含みます。したがって当期完成工事高にもかかる増減が含まれます。

b. 完成工事高の受注方法別比率

工事受注方法は、特命と競争に大別されます。

期別	区分	特命 (%)	競争 (%)	計 (%)
第62期 (自 平成28年 7月 1日 至 平成29年 6月30日)	土木工事	23.8	60.4	84.2
	建築工事	10.8	5.0	15.8
第63期 (自 平成29年 7月 1日 至 平成30年 6月30日)	土木工事	47.9	40.4	88.3
	建築工事	10.2	1.5	11.7

(注) 百分比は請負金額比であります。

c. 完成工事高

期間	区分	官公庁 (千円)	民間 (千円)	計 (千円)
第62期 (自平成28年 7月 1日 至平成29年 6月30日)	土木工事	934,405	678,567	1,612,973
	建築工事	306,868	89,491	396,359
	計	1,241,273	768,059	2,009,332
第63期 (自平成29年 7月 1日 至平成30年 6月30日)	土木工事	1,308,505	631,281	1,939,787
	建築工事	372,321	415,580	787,901
	計	1,680,827	1,046,861	2,727,689

(注) 1. 完成工事のうち請負金額 1 億円以上の工事の主なものは次のとおりであります。

第 62 期

朝倉市役所 : 杷木統合新設小学校 (C 工区) 建築主体工事
 福岡市役所 : 席田雨水幹線築造工事
 行橋市役所 : 西泉調整池築造工事 (1 工区)

第 63 期

筑後川河川事務所 : 赤谷川緊急復旧 (その 5) 工事
 朝倉市役所 : 杷木統合新設小学校 (C 工区) 建築主体工事
 半田建設 (株) : (有)本川牧場伏木育成牧場新築工事

2. 完成工事高総額に対する割合が100分の10以上の相手先別の完成工事高及びその割合は、次のとおりであります。

第 62 期

朝倉市役所 355,144千円 17.7%
 清水建設 (株) 240,307千円 12.0%

第 63 期

朝倉市役所 377,068千円 13.8%
 筑後川河川事務所 332,658千円 12.2%

d. 手持工事高（平成30年6月30日現在）

区分	官公庁（千円）	民間（千円）	計（千円）
土木工事	943,366	128,904	1,072,271
建築工事	-	8,181	8,181
計	943,366	137,086	1,080,452

（注） 手持工事のうち請負金額1億円以上の工事の主なものは次のとおりであります。

福岡北九州高速道路公社 : 第601工区（香椎浜）高架橋下部工新設工事（その1）
 朝倉県土整備事務所 : 大肥川河川災害復旧工事（2工区）
 朝倉県土整備事務所 : 宝珠山川河川災害復旧工事（2工区）

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって採用された重要な会計方針及び見積りについては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載のとおりであります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

(イ) 経営成績等

a. 財政状態の分析

(資産)

当連結会計年度末における流動資産は33億4千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億6千1百万円増加いたしました。これは主に受取手形・完成工事未収入金等が3億2千3百万円及び現金預金が2億6千6百万円増加したことによるものであります。固定資産は26億8千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億7百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が8千3百万円及び投資その他の資産が2千3百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、60億3千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億6千8百万円増加いたしました。

(負債)

当連結会計年度末における流動負債は31億1千万円となり、前連結会計年度末に比べ3億6千3百万円増加いたしました。これは主に未払法人税等が1億3千3百万円、支払手形・工事未払金等が1億5百万円、未払費用が5千1百万円増加したことによるものであります。固定負債は5億3千9百万円（前連結会計年度末は5億3千9百万円）となりました。

この結果、負債合計は、36億4千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億6千3百万円増加いたしました。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は23億8千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億5百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が3億3百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は39.5%（前連結会計年度末は38.7%）となりました。

b. 経営成績の分析

(受注高及び売上高)

建設事業部門の受注高は、主に土木事業において前連結会計年度比9.4%減少したため、当連結会計年度の受注高は24億4千7百万円(前連結会計年度比13.3%減)となりました。

建設事業部門の完成工事高は、前連結会計年度の22億1千2百万円から34.7%増の29億8千万円となりました。

完成工事の主なものは、赤谷川緊急復旧(その5)工事、杷木統合新設小学校(C工区)建築主体工事、(有)本川牧場伏木育成牧場新築工事であります。

砕石事業部門においては、小石原川ダム関連等の骨材出荷により、前連結会計年度の15億6千6百万円から17.7%増の18億4千4百万円となりました。

酒類事業部門の売上高は、国外及び国内の販売強化により、前連結会計年度の2億6千3百万円から10.0%増の2億8千9百万円となりました。

その他の事業部門の売上高は、前連結会計年度の4億7千4百万円から11.9%減の4億1千7百万円となりました。

(営業利益及び経常利益)

営業損益は、販売費及び一般管理費は増加しましたものの建設事業における完成工事粗利益の改善により、前連結会計年度の1億8千6百万円の営業利益から194.6%増の5億4千9百万円の営業利益に、経常損益は為替差損がありましたものの固定資産賃貸料の増加により、2億3千9百万円の経常利益から145.7%増の5億8千7百万円の経常利益になりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

上記の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度の1億3千4百万円の親会社株主に帰属する当期純利益から138.6%増の3億2千1百万円の親会社株主に帰属する当期純利益となりました。

c. キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1)経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

(ロ) 経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの事業が関係する市場の多くについては、国内外の企業との熾烈な競争が今後も続いていくと予想されることから、経営環境は依然として不透明な状況であります。

このような状況のもと、新工法の導入や新製品の開発に取り組むとともに積極的な営業活動を推進し、事業規模の拡大、利益増大による財務基盤の強化を行ってまいります。

(ハ) 資本の財源及び資金の流動性

当社グループの運転資金及び設備資金につきましては、営業活動及び借入により資金調達しております。

運転資金需要のうち主なものは、工事施工に必要な材料、外注費等の施工原価、共通するものとしては販売費及び一般管理費等の営業費用であります。また、設備資金需要としましては、工事施工に必要な建設設備、砕石等の製造に必要な砕石設備等による機械装置等固定資産購入によるものであります。

また、借入金に関しましては、運転資金は主に短期借入金で、設備などの固定資産は主に固定金利の長期借入金で調達しております。

(ニ) セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1)経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」に記載しております。

4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5【研究開発活動】

当連結会計年度における各セグメント別の研究成果及び研究開発費は次のとおりであります。
なお、当連結会計年度の研究開発費については、総額で3百万円となっております。

(建設事業部門)

該当事項はありません。

(碎石事業部門)

該当事項はありません。

(酒類事業部門)

該当事項はありません。

(その他の事業部門)

乳酸菌事業において、乳酸菌商品の優位性検証のため実験、研究を行っております。
なお、当セグメントにおける研究開発費は3百万円であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度に実施しました設備投資の総額は、3億3千2百万円であります。その主なものは、建設事業用機械装置4千1百万円、砕石事業用機械装置1億8千6百万円及び砕石事業用運搬車両4千9百万円であります。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却はありません。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成30年6月30日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物・構築物 (千円)	機械装置・運 搬具・工具器 具備品 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	合計 (千円)	
本社 (福岡県朝倉市)	全社	本社工屋	54,407	1,926	61,132 (483,814.30)	13,206	130,673	16
賃貸物件 (福岡市博多区)	その他の事業	賃貸マンション	80,649	-	15,581 (1,504.88)	-	96,230	-
太陽光発電 (福岡県朝倉市)	その他の事業	太陽光システム	-	169,220	230,415 (15,167.00)	-	399,635	-

(2) 国内子会社

平成30年6月30日現在

会社名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物・構築物 (千円)	機械装置・運 搬具・工具器 具備品 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	合計 (千円)	
(株)才田組 (福岡市博多区)	建設事業	本社工屋	5,303	43,659	21,874 (4,854.03)	-	70,837	42
才田砕石工業(株) (福岡県朝倉市)	砕石事業 その他の事業	砕石生産設備 給油所	168,067	355,745	461,465 (1,086,887.07)	646	985,925	49

(注) 上記の資産はリース資産は除き、提出会社から賃借しているものであります。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、今後の需要予測、利益に対する投資割合等を総合的に勘案して計画しております。設備計画は原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、グループ全体で重複投資とならないよう、当社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,124,000
計	2,124,000

(注)平成29年9月28日開催の第62期定時株主総会決議により、平成30年1月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。これにより、発行可能株式総数は19,116,000株減少し、2,124,000株となっております。

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成30年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年9月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	661,000	661,000	福岡証券取引所	単元株式数 100株
計	661,000	661,000	-	-

- (注)1.平成29年9月28日開催の第62期定時株主総会決議により、平成30年1月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。これにより、発行済株式総数は5,949,000株減少し、661,000株となっております。
- 2.平成29年9月28日開催の第62期定時株主総会決議により、平成30年1月1日付で単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年1月1日	5,949	661	-	942,950	-	235,737

(注) 株式併合(10:1)によるものであります。

(5) 【所有者別状況】

平成30年6月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式 の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他 の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	6	3	51	2	-	305	367	-
所有株式数 (単元)	-	554	27	3,905	2	-	2,120	6,608	200
所有株式数の 割合(%)	-	8.38	0.41	59.10	0.03	-	32.08	100	-

(注) 1. 自己株式30,506株は、「個人その他」に305単元、「単元未満株式の状況」に6株含まれております。

なお、自己株式30,506株は株主名簿記載上の株式数であり、平成30年9月27日現在の実質的な所有株式数は30,506株であります。

2. 上記「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が1単元含まれております。

3. 平成29年9月28日開催の第62期定時株主総会決議により、平成30年1月1日付で単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
賀和興産株式会社	福岡県朝倉市下淵583	174	27.61
株式会社ワイエスリー	福岡県久留米市花畑2丁目5-10	160	25.49
才田組従業員持株会	福岡県朝倉市下淵472	26	4.21
株式会社福岡銀行	福岡県福岡市中央区天神2丁目13-1	24	3.85
米田 秀之	東京都中央区	18	2.86
キャタピラー九州株式会社	福岡県筑紫野市針摺東3丁目6-1	15	2.40
株式会社アーステクニカ	東京都千代田区神田神保町2丁目4	10	1.59
才田 善之	福岡県朝倉市	9	1.48
才田 善郎	福岡県朝倉市	9	1.43
株式会社西日本シティ銀行	福岡県福岡市博多区博多駅前3丁目1-1	9	1.43
株式会社筑邦銀行	福岡県久留米市諏訪野町2456-1	9	1.43
計	-	464	73.75

(7)【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成30年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 30,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 630,300	6,302	-
単元未満株式	普通株式 200	-	-
発行済株式総数	661,000	-	-
総株主の議決権	-	6,302	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。また、議決権の数には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個は含めておりません。
2. 平成30年1月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。これにより、発行済株式総数は5,949,000株減少し、661,000株となっております。

【自己株式等】

平成30年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
サイトホールディングス株式会社	福岡県朝倉市下淵472	30,500	-	30,500	4.61
計	-	30,500	-	30,500	4.61

- (注) 平成30年1月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第9号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】
 該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成30年1月31日)での決議状況 (取得日 平成30年2月15日)	0.5	買取単価に買取対象の株式の終値を乗じた金額
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	0.5	1,010
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	-
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	-	-

(注) 1. 平成30年1月1日付の株式併合により生じた1株に満たない端数の処理につき、会社法第235条第2項、第234条第4項及び第5項の規定に基づく自己株式の買取りを行ったものです。
 2. 買取単価は、買取日の福岡証券取引所における当社株式の終値であります。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	325	55,674
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 1. 平成29年9月28日開催の第62期定時株主総会決議により、平成30年1月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。当事業年度における取得自己株式325株の内訳は、株式併合前325株であります。
 2. 当期間における取得自己株式には、平成30年9月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (株式併合による減少)	274,549.5	-	-	-
保有自己株式数	30,506	-	30,506	-

(注) 1. 平成29年9月28日開催の第62期定時株主総会決議により、平成30年1月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。
 2. 当期間における処理自己株式には、平成30年9月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。
 3. 当期間における保有自己株式数には、平成30年9月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、利益配分につきましては、企業体質の強化、財務基盤の安定性確保、今後の投資のための内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える新工法の導入や新製品の開発に有効投資してまいりたいと考えております。

なお、当社は「取締役会の決議により、毎年12月31日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たりの配当額 (円)
平成30年9月27日 定時株主総会決議	25,219	40

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期
決算年月	平成26年6月	平成27年6月	平成28年6月	平成29年6月	平成30年6月
最高(円)	266	255	238	155	2,840 (229)
最低(円)	88	147	126	132	1,955 (147)

(注) 1. 最高・最低株価は、福岡証券取引所におけるものであります。

2. 平成30年1月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。第63期の株価については株式併合後の最高・最低株価を記載し、()内に株式併合前の最高・最低株価を記載しております。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成30年1月	2月	3月	4月	5月	6月
最高(円)	2,030	2,190	2,400	2,239	2,840	2,800
最低(円)	1,961	2,000	2,134	2,106	2,200	2,626

(注) 最高・最低株価は、福岡証券取引所におけるものであります。

5【役員の状況】

男性 8名 女性 -名 (役員のうち女性の比率-%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)		才田 善之	昭和33年11月4日生	昭和57年4月 当社入社 平成3年8月 社長室長 平成5年9月 取締役社長室長兼内部監査室長 平成9年9月 取締役副社長 平成9年10月 代表取締役副社長 平成12年9月 代表取締役社長(現任) 平成18年1月 株式会社才田組代表取締役社長 (現任) 平成18年1月 才田砕石工業株式会社 代表取締役社長(現任) 平成18年1月 フェーズ・ジャパン株式会社 代表取締役社長(現任) 平成18年1月 株式会社サイテックス 代表取締役社長(現任) 平成22年7月 HUE FOODS COMPANY LIMITED 代表取締役就任(現任)	(注)3	9
取締役	砕石事業担当	原野 繁實	昭和25年3月5日生	昭和55年10月 当社入社 平成8年4月 砕石事業本部生産部長 平成18年1月 才田砕石工業株式会社取締役 平成19年9月 当社取締役就任(現任) 平成19年9月 当社砕石事業担当(現任)	(注)3	0
取締役	建設事業担当	鹿子生 忠	昭和29年1月22日生	昭和51年4月 当社入社 平成14年7月 福岡事業部建設部長 平成18年1月 株式会社才田組取締役(現任) 平成21年9月 当社取締役就任(現任) 平成21年9月 当社建設事業担当(現任)	(注)3	2
取締役	管理本部長	平山 繁之	昭和38年10月30日生	昭和57年4月 株式会社福岡銀行入行 平成21年6月 同行北野支店長 平成28年10月 当社入社管理本部長(現任) 平成29年9月 当社取締役就任(現任)	(注)3	-
取締役		藤山 征二郎	昭和37年10月29日生	平成11年7月 有限会社友加システム設立 (現任) 平成24年11月 中小企業診断士登録(現任) 平成29年9月 当社取締役就任(現任)	(注)3	-
監査役 (常勤)		梯 久男	昭和25年7月30日生	昭和44年4月 株式会社福岡銀行入行 平成4年4月 同行新飯塚支店長 平成17年4月 医療法人繁桜会馬場病院入職 平成19年7月 当社入社経理部長 平成21年9月 当社取締役 平成22年5月 当社管理本部長 平成27年9月 当社監査役(常勤)就任(現任)	(注)4	-
監査役		鈴川 照美	昭和21年10月29日生	平成17年3月 小倉北警察署長 平成18年3月 警視長昇任 平成18年4月 三菱電機株式会社九州支社顧問 平成22年9月 当社監査役就任(現任) 平成23年4月 株式会社ワールドインテック 常任顧問就任 平成26年3月 株式会社ワールドインテック (現株式会社ワールドホール ディングス)監査役	(注)5	-
監査役		森田 公一	昭和23年1月9日生	平成8年10月 老人保健施設若杉の里管理者 平成10年8月 社会福祉法人恵徳会理事長就任 (現任) 平成22年9月 当社監査役就任(現任)	(注)5	-
計						12

- (注) 1. 取締役 藤山征二郎は、社外役員(会社法施行規則第2条第3項第5号)に該当する社外取締役(会社法第2条第15号)であります。
2. 監査役 鈴川照美及び森田公一は、社外役員(会社法施行規則第2条第3項第5号)に該当する社外監査役(会社法第2条第16号)であります。
3. 平成29年9月28日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
4. 平成27年9月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
5. 平成30年9月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
6. 当社は、法令に定める監査役の数に欠ける場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
舟木 正之	昭和22年10月1日生	昭和43年2月 当社入社 平成12年10月 砕石事業本部砕石営業部長 平成16年8月 当社退社	2

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

(イ) 企業統治の体制の概要

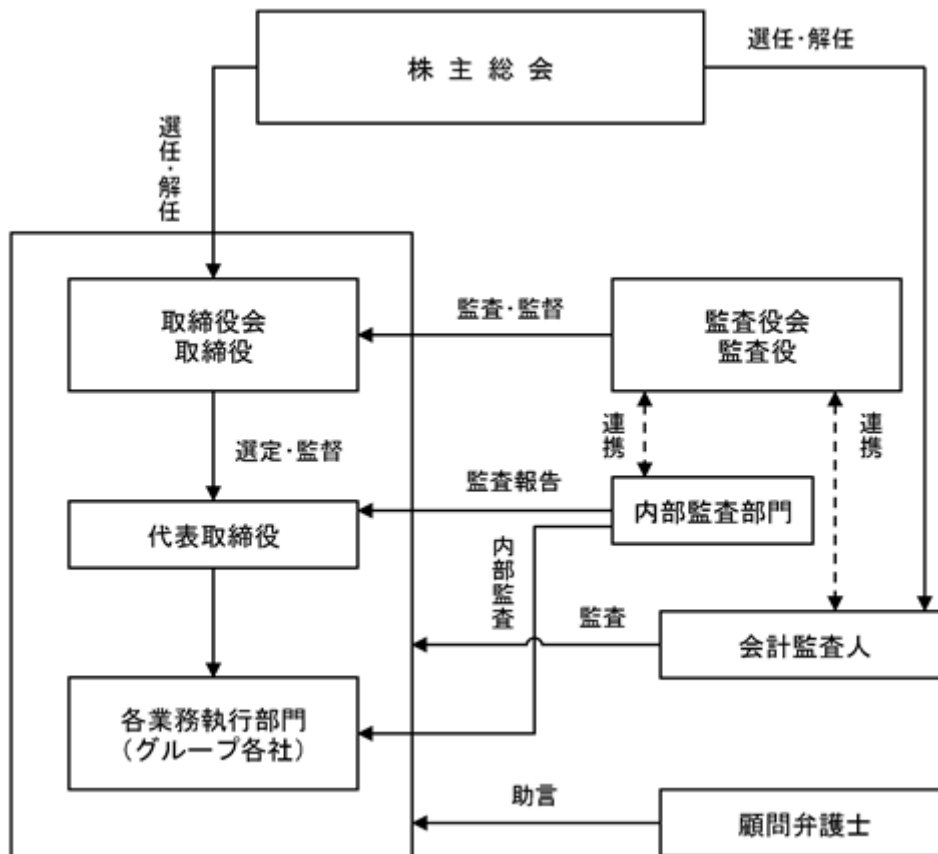
取締役会は原則として毎月1回、その他必要に応じて開催し、経営の基本方針、法定専決事項、その他経営にかかる重要事項等に関する討議・決定を行うとともに、業務の執行状況に関する監督、経営計画の進捗状況の確認等を行っております。

また、これに加えて、コンプライアンスの強化のための教育、指導、あるいは、適時、適切な経営情報の開示等に取り組んでおります。

なお、取締役は5名であり、うち1名は社外取締役であります。

社外取締役は、取締役会での議案審議に当たり、独立した立場から経営の監督機能を担っております。

監査役は会社の健全な経営に資するため、取締役会等重要な会議に出席し、提言・助言・勧告を行っております。なお、監査役は常勤監査役1名と社外監査役2名、計3名が就任しており、監査役会を設置しております。



(ロ) 企業統治の体制を採用する理由

当社は、ステークホルダーならびに社会に信頼される企業をめざし、継続的に企業価値を高めていくため、経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制と公正な経営システムを構築・維持改善し、コーポレート・ガバナンスの確立に努力していくことを、極めて重要な経営課題と認識しております。

(ハ) 内部統制システムの整備の状況

企業活動における法令順守、公正性、倫理性を確保するために、内部統制体制として内部牽制および内部監査制度を設けております。また、内部統制システム構築の基本方針を定め、内部統制委員会を設置、体制作りに取り組んでおります。

(ニ) リスク管理体制の整備の状況

当社の管理部門は、法令等の改正及び企業を取り巻く経済環境の変化を各事業部門に周知徹底し、各事業部門は当該事業に関連する法令改正等の動向に注視するほか、事業活動において発生し得るリスク等を事業部会等でその都度報告することとしております。

(ホ) 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社代表取締役及び取締役並びに常勤監査役が子会社の経営会議等に定期的に出席し、月次決算や業務の定期報告を受け、重要事項の事前協議を行うなど、子会社の業務の適正を確保する体制整備を図っております。

(ヘ) 責任限定契約の内容の概要

当社と取締役（業務執行取締役等である者を除く。）及び監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、取締役（業務執行取締役等である者を除く。）及び監査役共に5百万円以上であらかじめ定められた額、又は法令が規定する額のいずれか高い額であります。

内部監査及び監査役監査の状況

内部監査は、当社内部監査規程及び実施要領に則って監査を行っており、監査結果につきましては、取締役会に報告しております。また、監査役及び会計監査人とも協議を行い、連携した監査を行っております。

常勤監査役は、取締役会等重要な会議に出席し、提言・助言・勧告を行うとともに、内部監査室や会計監査人と随時情報交換を行い、業務監査及び会計監査を行っております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

社外取締役藤山征二郎氏は、経営者としての豊富な経験及び中小企業診断士としての専門知識を活かし、当社の経営全般に関して監督していただけるものと考えております。当社と同氏の間には、人的関係、資本的関係及び重要な取引その他の利害関係は無いものと判断しており、社外取締役として選任するとともに、当社が上場する福岡証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

社外監査役鈴木照美氏は、福岡県警察で培われたコンプライアンスに関する専門的な知識と経験を当社監査体制に生かしていただいております。当社と同氏の間には、人的関係、資本的関係及び重要な取引その他の利害関係は無いものと判断しており、社外監査役に選任しております。

社外監査役森田公一氏は、社会福祉法人恵徳会の理事長としての豊富な知識と経験を当社監査体制に活かしていただいております。当社と同氏の間には、人的関係、資本的関係及び重要な取引その他の利害関係は無いものと判断しており、社外監査役に選任するとともに、当社が上場する福岡証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

当社は、社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

役員報酬等

(イ) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)		対象となる 役員の人数
		基本報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	14,136	11,950	2,186	4名
監査役 (社外監査役を除く)	3,712	3,600	112	1名
社外役員	763	600	163	2名

(注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

2. 上記には、平成29年9月28日開催の第62期定時株主総会において退任した社外取締役1名の在任中の報酬額が含まれております。

(ロ) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりませんが各役員の報酬は、株主総会で承認された取締役・監査役それぞれの報酬額の範囲内で、各取締役の報酬については取締役会の決定により、各監査役の報酬については監査役会の協議により定めております。

株式の保有状況

当社及び連結子会社のうち、投資株式の貸借対照表計上額（投資株式計上額）が最も大きい会社（最大保有会社）であるサイトホールディングス株式会社の株式の保有状況については以下のとおりです。

(イ) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

13銘柄 130,451千円

(口) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度
 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)ふくおかフィナンシャルグループ	124,825	66,656	取引関係維持
第一生命ホールディングス(株)	7,600	15,401	取引関係維持
(株)筑邦銀行	56,780	12,264	取引関係維持
(株)西日本フィナンシャルホールディングス	10,400	12,126	取引関係維持
(株)富士ピー・エス	11,000	4,026	取引関係維持
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	4,000	3,019	取引関係維持
(株)正興電機製作所	1,651	1,127	取引関係維持
(株)みずほフィナンシャルグループ	2,700	554	取引関係維持

当事業年度
 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)ふくおかフィナンシャルグループ	124,825	69,527	取引関係維持
第一生命ホールディングス(株)	7,600	15,017	取引関係維持
(株)西日本フィナンシャルホールディングス	10,400	13,468	取引関係維持
(株)筑邦銀行(注)	5,678	11,923	取引関係維持
(株)富士ピー・エス	11,000	8,679	取引関係維持
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	4,000	2,524	取引関係維持
(株)正興電機製作所	1,651	1,807	取引関係維持
(株)みずほフィナンシャルグループ	2,700	503	取引関係維持

(注) (株)筑邦銀行は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。

会計監査の状況

当社は、如水監査法人を当社の会計監査人として選任しております。

当期において業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名は以下のとおりであります。

如水監査法人

指定社員 業務執行社員 松尾 拓也

指定社員 業務執行社員 内田 健二

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名、会計士補等2名であります。

なお、継続関与年数については、7年以内であるため記載を省略しております。

取締役の定数

当社の取締役の定数は12名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

取締役の選任の要件は、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

取締役会で決議することができる株主総会決議事項

(イ) 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議により市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経済情勢の変化に対応して、資本政策を機動的に実施することを目的とするものであります。

(ロ) 中間配当の決定

当社は、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって毎年12月31日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。これは中間配当を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、適切な人材の招聘を容易にし、期待される役割を十分に発揮できるように、会社法第427条第1項の規定により、取締役会決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役（業務執行取締役等である者を除く。）及び監査役の責任を限定することができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件につきまして、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会の特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会を円滑に運営することを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

役員区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	19,812	-	19,512	-
連結子会社	-	-	-	-
計	19,812	-	19,512	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、会社の規模、監査日数等を勘案した上で決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）第2条の規定に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）により作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成29年7月1日から平成30年6月30日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成29年7月1日から平成30年6月30日まで）の財務諸表について、如水監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、会計基準等の内容を適切に把握するため、経理部門において会計基準等の動向を解説した各種研修会への参加及び機関紙を定期購読するなど、連結財務諸表等の適正確保に取り組んでおります。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当連結会計年度 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	4 1,618,791	4 1,885,247
受取手形・完成工事未収入金等	854,785	5 1,178,463
未成工事支出金等	1 230,486	1 207,302
繰延税金資産	56,547	68,316
その他	29,552	12,455
貸倒引当金	2,898	2,855
流動資産合計	2,787,263	3,348,930
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	4 331,661	4 312,410
機械、運搬具及び工具器具備品(純額)	4 571,626	4 650,562
土地	4 755,770	4 790,994
リース資産(純額)	22,060	13,852
その他	26,898	23,578
有形固定資産合計	2 1,708,017	2 1,791,398
無形固定資産		
採石権	12,666	12,666
その他	2,663	2,663
無形固定資産合計	15,329	15,329
投資その他の資産		
投資有価証券	3, 4 278,454	3, 4 282,131
保険積立金	186,241	199,804
繰延税金資産	22,170	7,545
退職給付に係る資産	91,561	105,526
その他	336,043	343,334
貸倒引当金	61,330	61,330
投資その他の資産合計	853,142	877,011
固定資産合計	2,576,489	2,683,740
資産合計	5,363,752	6,032,670

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当連結会計年度 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	601,650	706,819
短期借入金	4 1,614,215	4 1,643,492
リース債務	8,823	6,878
未払費用	103,254	154,981
未払法人税等	81,070	214,488
未成工事受入金	136,651	153,052
工事損失引当金	9,400	10,800
賞与引当金	5,080	6,482
その他	186,878	213,158
流動負債合計	2,747,023	3,110,153
固定負債		
長期借入金	4 346,984	4 354,114
リース債務	15,350	8,472
繰延税金負債	3,315	6,075
退職給付に係る負債	136,968	132,023
役員退職慰労引当金	31,826	34,526
その他	4,729	4,063
固定負債合計	539,174	539,273
負債合計	3,286,198	3,649,427
純資産の部		
株主資本		
資本金	942,950	942,950
資本剰余金	594,558	594,558
利益剰余金	597,994	901,063
自己株式	35,728	35,785
株主資本合計	2,099,774	2,402,787
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,026	9,099
為替換算調整勘定	25,246	28,643
その他の包括利益累計額合計	22,219	19,543
純資産合計	2,077,554	2,383,243
負債純資産合計	5,363,752	6,032,670

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
売上高		
完成工事高	2,212,091	2,980,471
兼業事業売上高	2,304,435	2,552,060
売上高合計	4,516,527	5,532,531
売上原価		
完成工事原価	6,198,142	6,236,363
兼業事業売上原価	1,660,307	1,794,809
売上原価合計	3,645,450	4,160,172
売上総利益		
完成工事総利益	226,948	615,108
兼業事業総利益	644,128	757,251
売上総利益合計	871,077	1,372,359
販売費及び一般管理費	1,684,569	1,282,890
営業利益	186,507	549,469
営業外収益		
受取利息	912	926
受取配当金	2,752	3,067
固定資産賃貸料	5,326	39,632
持分法による投資利益	21,534	9,996
貸倒引当金戻入額	1,500	-
為替差益	23,286	-
その他	31,124	19,522
営業外収益合計	86,436	73,145
営業外費用		
支払利息	21,539	20,850
為替差損	-	5,982
その他	12,207	7,990
営業外費用合計	33,747	34,823
経常利益	239,195	587,791

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
特別利益		
固定資産売却益	3 4,997	3 6,941
投資有価証券売却益	2,499	-
特別利益合計	7,497	6,941
特別損失		
投資有価証券評価損	1,400	4,184
減損損失	5 20,602	5 18,095
固定資産売却損	-	4 263
投資有価証券売却損	103	-
特別損失合計	22,106	22,544
税金等調整前当期純利益	224,587	572,188
法人税、住民税及び事業税	77,839	246,725
法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額	79	63
法人税等調整額	11,891	3,413
法人税等合計	89,652	250,203
当期純利益	134,935	321,984
親会社株主に帰属する当期純利益	134,935	321,984

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
当期純利益	134,935	321,984
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	32,057	6,072
為替換算調整勘定	12,571	3,396
その他の包括利益合計	1 19,486	1 2,676
包括利益	154,421	324,660
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	154,421	324,660
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	942,950	716,574	341,043	35,728	1,964,839
当期変動額					
欠損填補		122,015	122,015		-
親会社株主に帰属する当期純利益			134,935		134,935
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	122,015	256,950	-	134,935
当期末残高	942,950	594,558	597,994	35,728	2,099,774

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	29,030	12,675	41,706	1,923,133
当期変動額				
欠損填補				-
親会社株主に帰属する当期純利益				134,935
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	32,057	12,571	19,486	19,486
当期変動額合計	32,057	12,571	19,486	154,421
当期末残高	3,026	25,246	22,219	2,077,554

当連結会計年度（自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	942,950	594,558	597,994	35,728	2,099,774
当期変動額					
剰余金の配当			18,915		18,915
親会社株主に帰属する当期純利益			321,984		321,984
自己株式の取得				56	56
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	-	303,069	56	303,012
当期末残高	942,950	594,558	901,063	35,785	2,402,787

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	3,026	25,246	22,219	2,077,554
当期変動額				
剰余金の配当				18,915
親会社株主に帰属する当期純利益				321,984
自己株式の取得				56
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6,072	3,396	2,676	2,676
当期変動額合計	6,072	3,396	2,676	305,688
当期末残高	9,099	28,643	19,543	2,383,243

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	224,587	572,188
減価償却費	233,627	227,422
立木費	3,343	3,319
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,250	-
賞与引当金の増減額(は減少)	95	1,402
工事損失引当金の増減額(は減少)	3,100	1,400
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	39,093	18,765
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	1,724	2,700
受取利息及び受取配当金	3,665	3,993
支払利息	21,539	20,850
為替差損益(は益)	23,286	2,240
投資有価証券評価損益(は益)	1,400	4,184
投資有価証券売却損益(は益)	2,396	-
持分法による投資損益(は益)	21,534	9,996
固定資産売却損益(は益)	4,997	6,677
減損損失	20,602	18,095
売上債権の増減額(は増加)	7,351	323,446
未成工事支出金の増減額(は増加)	24,473	9,912
たな卸資産の増減額(は増加)	8,992	11,775
仕入債務の増減額(は減少)	104,454	109,831
未成工事受入金の増減額(は減少)	136,651	16,400
未払消費税等の増減額(は減少)	779	32,062
その他の資産の増減額(は増加)	20,329	7,445
その他の負債の増減額(は減少)	89,561	37,201
その他	1,202	1,000
小計	685,299	716,553
利息及び配当金の受取額	4,122	4,481
利息の支払額	20,477	21,747
法人税等の支払額	14,339	114,112
法人税等の還付額	14,512	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	669,118	585,176

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	446,176	446,198
定期預金の払戻による収入	446,155	446,176
貸付けによる支出	-	5,800
貸付金の回収による収入	6,107	4,551
投資有価証券の取得による支出	1,000	-
投資有価証券の売却による収入	2,667	-
有形固定資産の取得による支出	199,870	319,098
有形固定資産の売却による収入	5,004	7,382
保険積立金の積立による支出	7,910	8,787
その他	582	5,003
投資活動によるキャッシュ・フロー	195,604	326,776
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	49,870	349
長期借入れによる収入	125,500	154,400
長期借入金の返済による支出	103,704	118,343
リース債務の返済による支出	15,578	8,823
自己株式の取得による支出	-	56
配当金の支払額	226	18,922
財務活動によるキャッシュ・フロー	43,880	8,603
現金及び現金同等物に係る換算差額	20,420	568
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	450,054	266,434
現金及び現金同等物の期首残高	842,559	1,292,614
現金及び現金同等物の期末残高	1,292,614	1,559,048

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 子会社のうち主要な子会社8社を連結しております。

連結子会社は株式会社才田組、才田砕石工業株式会社、フエフーズ・ジャパン株式会社、株式会社サイテックス、有限会社賀和運送、立花建設有限会社、HUE FOODS COMPANY LIMITED及びSAITA TRADING COMPANY LIMITEDであります。

(2) 非連結子会社の名称等

非連結子会社

有限会社山本商店

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は小規模であり、その総資産額、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) すべての関連会社(1社)に対する投資について持分法を適用しております。

持分法適用の関連会社は朝倉生コンクリート株式会社であります。

(2) 持分法を適用していない非連結子会社は有限会社山本商店であります。当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

たな卸資産

未成工事支出金は個別法による原価法、石油等に係る商品は先入先出法による原価法、酒類に係る商品は移動平均法による原価法、製品は売価還元原価法及び貯蔵品は移動平均法による原価法(いずれも貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社の砕石工場に係る有形固定資産

定額法を採用しております。

当社の砕石工場を除く有形固定資産及び国内連結子会社

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)及び平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 10年～50年

砕石製造設備に係る機械装置 12年

その他の機械装置及び運搬具 2年～8年

無形固定資産

採石権については、生産高比例法によっております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(連結貸借対照表関係)

1 未成工事支出金等の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当連結会計年度 (平成30年6月30日)
未成工事支出金	26,884千円	16,972千円
商品及び製品	188,893	178,153
貯蔵品	14,707	12,176

2 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当連結会計年度 (平成30年6月30日)
有形固定資産の減価償却累計額	6,015,265千円	6,087,180千円

3 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当連結会計年度 (平成30年6月30日)
投資有価証券(株式)	152,093千円	151,679千円

4 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)		当連結会計年度 (平成30年6月30日)	
現金預金	101,176千円	千円	101,198千円	千円
建物・構築物	244,925	(90,033)	232,389	(84,591)
機械、運搬具及び工具器具備品	105,075	(74,074)	176,509	(148,968)
土地	670,158	(235,057)	670,158	(235,057)
投資有価証券	12,264		11,923	
計	1,133,600	(399,165)	1,192,179	(468,617)

上記のうち()内書は工場財団抵当権を示しております。

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当連結会計年度 (平成30年6月30日)
短期借入金	1,498,615千円	1,499,210千円
長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)	449,434	485,315
計	1,948,050	1,984,526

5 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当連結会計年度 (平成30年6月30日)
受取手形	-千円	33,947千円

6 保証債務

次の関係会社等について、金融機関からの借入に対し債務保証及び保証予約を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当連結会計年度 (平成30年6月30日)
山本商店	12,648千円	8,974千円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
碎石運搬費	58,083千円	130,368千円
給与手当	227,472	220,873
賞与引当金繰入額	1,658	2,235
退職給付費用	2,503	3,573
減価償却費	44,576	34,743
事務委託費	38,090	38,965
貸倒引当金繰入額	249	-
役員退職慰労引当金繰入額	1,724	2,900

2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
研究開発費	- 千円	3,603千円

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
機械、運搬具及び工具器具備品	4,997千円	6,941千円
計	4,997	6,941

4 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
機械、運搬具及び工具器具備品	- 千円	263千円
計	-	263

5 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度（自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日）

場所	用途	種類
福岡県朝倉市	石油販売事業部門	機械、運搬具及び工具器具備品
福岡県朝倉市	環境事業部門	機械、運搬具及び工具器具備品
ベトナム社会主義共和国フエ市	酒類事業部門	機械、運搬具及び工具器具備品
福岡県朝倉市	遊休資産	立木

当社グループは事業部門単位で資産のグルーピングを行っており、事業部門単位に属しない資産は共有資産及び遊休資産として扱っております。

その結果、収益性が低下した資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（5,229千円）として特別損失に計上しました。その内訳は、石油販売事業部門の機械装置1,549千円及び環境事業部門の運搬具299千円、酒類事業部門の運搬具3,379千円であります。

また、事業の用に供していない遊休資産のうち、時価が著しく下落した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（15,373千円）として特別損失に計上しました。

回収可能価額の算定に当たっては、主として固定資産税評価額又は取引事例価額を基に算定した正味売却可能価額により評価しております。

当連結会計年度（自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日）

場所	用途	種類
ベトナム社会主義共和国フエ市	酒類事業部門	建物・構築物、機械、運搬具及び工具器具備品、その他

当社グループは事業部門単位で資産のグルーピングを行っており、事業部門単位に属しない資産は共有資産及び遊休資産として扱っております。

その結果、収益性が低下した資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（18,095千円）として特別損失に計上しました。その内訳は、酒類事業部門の建物・構築物522千円、機械、運搬具及び工具器具備品15,515千円及び投資その他の資産その他2,057千円であります。

回収可能価額の算定に当たっては、正味売却可能価額により評価しておりますが、他への転用や売却が困難であることから、備忘価額により評価しております。

6 完成工事原価に含まれている工事損失引当金繰入額

前連結会計年度 （自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日）	当連結会計年度 （自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日）
3,100千円	1,400千円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	35,435千円	8,275千円
組替調整額	103	-
税効果調整前	35,539	8,275
税効果額	3,481	2,202
その他有価証券評価差額金	32,057	6,072
為替換算調整勘定		
当期発生額	12,571	3,396
その他の包括利益合計	19,486	2,676

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成28年7月1日至平成29年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
発行済株式 普通株式(株)	6,610,000	-	-	6,610,000
自己株式 普通株式(株)	304,730	-	-	304,730

2. 剰余金の配当に関する事項

当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項

該当事項はありません。

基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年9月28日 定時株主総会	普通株式	18,915	3	平成29年6月30日	平成29年9月29日

当連結会計年度(自平成29年7月1日至平成30年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
発行済株式 普通株式(株)(注)1.2.	6,610,000	-	5,949,000	661,000
自己株式 普通株式(株)(注)1.3. 4.	304,730	325.5	274,549.5	30,506

(注)1. 当社は、平成30年1月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。

2. 普通株式の発行済株式総数の減少5,949,000株は株式併合によるものであります。

3. 普通株式の自己株式の株式数の増加325.5株は、株式併合に伴う端数株式の買取りによる増加0.5株及び单元未満株式の買取りによる増加325株(株式併合前325株)によるものであります。

4. 普通株式の自己株式の株式数の減少274,549.5株は、株式併合による減少274,549.5株によるものであります。

2. 剰余金の配当に関する事項

当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年9月28日 定時株主総会	普通株式	18,915	3	平成29年6月30日	平成29年9月29日

(注)平成30年1月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。「1株当たり配当額」につきましては、当該株式併合前の金額を記載しております。

基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年9月27日 定時株主総会	普通株式	25,219	40	平成30年6月30日	平成30年9月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
現金及び預金勘定	1,618,791千円	1,885,247千円
預入期間が3か月を超える定期預金	326,176	326,198
現金及び現金同等物	1,292,614	1,559,048

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

管理部門における運用管理システム(機械、運搬具及び工具器具備品)及び砕石部門におけるダンプトラック(機械、運搬具及び工具器具備品)等であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当連結会計年度 (平成30年6月30日)
1年内	21,840	13,740
1年超	17,420	3,680
合計	39,260	17,420

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達については銀行等金融機関からの借入によっております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形・完成工事未収入金等は、顧客の信用リスクに晒されております。当社は営業管理規程に沿ってリスクの低減を図っております。なお、連結子会社についても、当社の営業管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。投資有価証券については、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

営業債務である支払手形・工事未払金等は、そのほとんどが6ヶ月以内の支払期日であります。

短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であります。

営業債務や短期借入金の流動性リスクは、当社担当部署でグループ会社全体を一括管理することで、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注)2.参照)。

前連結会計年度(平成29年6月30日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金預金	1,618,791	1,618,791	-
(2) 受取手形・完成工事未収入金等	854,785	854,785	-
(3) 投資有価証券	115,176	115,176	-
資産計	2,588,753	2,588,753	-
(4) 支払手形・工事未払金等	601,650	601,650	-
(5) 短期借入金	1,614,215	1,614,215	-
(6) 未成工事受入金	136,651	136,651	-
(7) 長期借入金	346,984	301,061	45,923
負債計	2,699,501	2,653,578	45,923

当連結会計年度（平成30年6月30日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金預金	1,885,247	1,885,247	-
(2) 受取手形・完成工事未 収入金等	1,178,463	1,178,463	-
(3) 投資有価証券	123,451	123,451	-
資産計	3,187,162	3,187,162	-
(4) 支払手形・工事未払金 等	706,819	706,819	-
(5) 短期借入金	1,643,492	1,643,492	-
(6) 未成工事受入金	153,052	153,052	-
(7) 長期借入金	354,114	352,950	1,163
負債計	2,857,478	2,856,314	1,163

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法に関する事項

(1) 現金預金、(2) 受取手形・完成工事未収入金等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(4) 支払手形・工事未払金等、(5) 短期借入金、(6) 未成工事受入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(7) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当連結会計年度 (平成30年6月30日)
非上場株式	163,278	158,679

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額
 前連結会計年度(平成29年6月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金預金	1,611,359	-	-	-
受取手形・完成工事未収入金等	854,785	-	-	-
合計	2,466,145	-	-	-

当連結会計年度(平成30年6月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金預金	1,877,345	-	-	-
受取手形・完成工事未収入金等	1,178,463	-	-	-
合計	3,055,809	-	-	-

4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額
 前連結会計年度(平成29年6月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	102,274	100,042	91,821	84,102	43,481	27,538
合計	102,274	100,042	91,821	84,102	43,481	27,538

当連結会計年度(平成30年6月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	131,201	123,138	115,182	74,561	41,233	-
合計	131,201	123,138	115,182	74,561	41,233	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年6月30日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	90,785	77,113	13,671
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	90,785	77,113	13,671
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	24,390	30,896	6,505
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	24,390	30,896	6,505
合計		115,176	108,009	7,166

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 11,185千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成30年6月30日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	98,059	77,113	20,946
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	98,059	77,113	20,946
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	25,391	30,896	5,504
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	25,391	30,896	5,504
合計		123,451	108,009	15,442

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 7,000千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計金額(千円)	売却損の合計金額(千円)
株式	2,667	2,499	103

上記売却損は、上場会社の株式併合の結果生じた1株未満の端数株処分によるものであります。

当連結会計年度(自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)

該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日）

有価証券について1,400千円（その他有価証券の株式1,400千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度（自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日）

有価証券について4,184千円（その他有価証券の株式4,184千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

（デリバティブ取引関係）

当社グループは、デリバティブ取引を全く利用していないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金及び退職一時金を統合した退職給付制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	(自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
退職給付に係る負債の期首残高	141,216千円	136,968千円
退職給付に係る資産の期首残高	57,406	91,561
退職給付費用	4,888	12,699
退職給付の支払額	25,745	23,621
制度への拠出額	7,769	7,988
退職給付に係る負債の期末残高	136,968	132,023
退職給付に係る資産の期末残高	91,561	105,526

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成29年6月30日)	(平成30年6月30日)
積立型制度の退職給付債務	147,579千円	142,823千円
年金資産	239,141	248,350
	91,561	105,526
非積立型制度の退職給付債務	136,968	132,023
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	45,406	26,496
退職給付に係る負債	136,968	132,023
退職給付に係る資産	91,561	105,526
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	45,406	26,496

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	前連結会計年度	4,888千円	当連結会計年度	12,699千円
----------------	---------	---------	---------	----------

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当連結会計年度 (平成30年6月30日)
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	12,037千円	6,123千円
投資有価証券	15,923	17,190
会員権	16,412	16,412
出資金	2,846	2,846
賞与引当金	1,731	2,201
貸倒引当金	19,286	19,286
減損損失	34,486	33,876
たな卸資産	21,180	19,210
未収入金	5,653	5,653
役員退職慰労引当金	9,637	10,471
繰越欠損金	58,650	40,415
未払費用	16,248	29,236
その他	15,153	24,118
繰延税金資産 小計	229,247	227,043
評価性引当額	149,608	150,838
繰延税金資産 合計	79,638	76,205
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	4,139	6,342
その他	98	76
繰延税金負債 合計	4,238	6,419
繰延税金資産純額	75,400	69,786

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当連結会計年度 (平成30年6月30日)
法定実効税率 (調整)	30.69%	30.69%
住民税均等割	1.36	0.53
留保金課税	4.18	4.98
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.16	0.96
持分法投資利益	2.68	0.43
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.14	0.06
評価性引当額	2.56	2.30
過年度法人税等	0.04	0.01
その他	0.82	4.75
法人税等の負担率	39.92	43.73

(賃貸等不動産関係)

当社は、福岡県に賃貸用不動産を有しております。

前連結会計年度における当該賃貸用不動産に関する賃貸損益は、11,340千円(賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上)であります。当連結会計年度における当該賃貸用不動産に関する賃貸損益は、42,529千円(賃貸収益は売上高及び営業外収益に、主な賃貸費用は売上原価に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	104,603	100,312
期中増減額	4,291	31,142
期末残高	100,312	131,454
期末時価	136,080	168,425

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、社内業績管理単位であるサービス別の事業本部を基礎とし、経済的特徴が類似している事業セグメントを集約した「建設事業」、「砕石事業」、「酒類事業」を報告セグメントとしております。

事業セグメントの内容は以下のとおりであります。

- 建設事業 : 土木・建築その他建設工事全般に関する事業
- 砕石事業 : 砕石及び砕砂の製造、販売及び運搬等に関する事業
- 酒類事業 : 酒類製造販売事業

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2 4、5	連結 財務諸表 計上額 (注)3
	建設事業	砕石事業	酒類事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,212,091	1,566,981	263,051	4,042,124	474,402	4,516,527	-	4,516,527
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,200	12,913	539	16,653	17,974	34,627	34,627	-
計	2,215,291	1,579,895	263,591	4,058,777	492,377	4,551,155	34,627	4,516,527
セグメント利益又は損失()	137,259	205,698	33,550	309,407	29,802	339,210	152,702	186,507
セグメント資産	1,368,691	2,319,109	142,515	3,830,317	569,080	4,399,397	964,355	5,363,752
その他の項目								
減価償却費(注)6	4,475	186,644	-	191,120	31,528	222,648	10,978	233,627
のれんの償却額	-	-	-	-	2,777	2,777	-	2,777
減損損失	-	-	3,379	3,379	1,849	5,229	15,373	20,602
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	13,184	168,666	3,379	185,230	14,640	199,870	-	199,870

当連結会計年度（自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2 4、5	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	建設事業	砕石事業	酒類事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,980,471	1,844,679	289,426	5,114,577	417,954	5,532,531	-	5,532,531
セグメント間の内部売上高又は振替高	7,788	152,181	533	160,502	25,044	185,546	185,546	-
計	2,988,259	1,996,860	289,959	5,275,079	442,998	5,718,078	185,546	5,532,531
セグメント利益又は損失()	379,153	383,584	36,883	725,854	22,474	748,329	198,859	549,469
セグメント資産	1,758,268	2,679,794	129,503	4,567,566	544,312	5,111,878	920,791	6,032,670
その他の項目								
減価償却費(注) 6	10,994	176,981	-	187,975	29,231	217,206	10,215	227,422
減損損失	-	-	18,095	18,095	-	18,095	-	18,095
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	41,488	235,809	18,095	295,392	2,307	297,699	35,223	332,923

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、石油販売事業、不動産事業、太陽光発電事業、環境事業、警備事業及び乳酸菌事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
セグメント間取引消去	2,088	2,278
全社費用	154,791	201,138
合計	152,702	198,859

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 調整額に記載されているセグメント資産の額は報告セグメントに帰属しない資産であります。

5. 調整額に記載されている減価償却費、減損損失、有形固定資産及び無形固定資産の増加額は、報告セグメントに帰属しない資産について前連結会計年度及び当連結会計年度に発生した額であります。

6. 減価償却費には、長期前払費用の償却額が含まれております。

【関連情報】

前連結会計年度（自平成28年7月 1日 至平成29年6月30日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えているため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
朝倉市役所	355,144	建設事業
清水建設(株)	240,307	建設事業

当連結会計年度（自平成29年7月 1日 至平成30年6月30日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えているため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
朝倉市役所	377,068	建設事業
筑後川河川事務所	332,658	建設事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成28年7月 1日 至平成29年6月30日）

（単位：千円）

	建設事業	砕石事業	酒類事業	その他	全社・消去	合計
減損損失	-	-	3,379	1,849	15,373	20,602

（注）1．「その他」の金額は、石油販売事業及び環境事業に係る金額であります。

2．「全社・消去」の金額は、セグメントに帰属しない全社資産に係る減損損失であります。

当連結会計年度（自平成29年7月 1日 至平成30年6月30日）

（単位：千円）

	建設事業	砕石事業	酒類事業	その他	全社・消去	合計
減損損失	-	-	18,095	-	-	18,095

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成28年7月 1日 至平成29年6月30日）

（単位：千円）

	建設事業	砕石事業	酒類事業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	-	-	-	2,777	-	2,777
当期末残高	-	-	-	-	-	-

（注）「その他」の金額は、環境事業に係る金額であります。

当連結会計年度（自平成29年7月 1日 至平成30年6月30日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自平成28年7月 1日 至平成29年6月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成29年7月 1日 至平成30年6月30日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	才田 善之	-	-	当社代表 取締役社長	(被所有) 1.47	-	被債務保証 (注)	163,498	-	-

(注) 代表取締役社長才田善之は、日本政策金融公庫からの当社借入に対して債務保証を行っております。
 また、当社は同氏へ保証料の支払は行っていません。

当連結会計年度（自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	才田 善之	-	-	当社代表 取締役社長	(被所有) 1.48	-	被債務保証 (注)	136,306	-	-

(注) 代表取締役社長才田善之は、日本政策金融公庫からの当社借入に対して債務保証を行っております。
 また、当社は同氏へ保証料の支払は行っていません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引
 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等
 前連結会計年度（自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の 内容又は 職業	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその 近親者が議決 権の過半数を 所有している 会社等	㈱時津運送社 (注2)	福岡県 朝倉郡 筑前町	10,000	運送業	-	運送の委託・ 製品の販売	運送の委託 (注3)	4,747	支払手形・ 工事未払金 等	244
							砕石製品の 販売 (注3)	4,055	受取手形・ 完成工事未 収入金等	111

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれております。
 2. 株式会社時津運送社は、当社取締役原野繁實の近親者が株式の過半数を所有しております。
 3. 砕石運送及び砕石製品の取引条件は、一般取引先と同様の条件によっております。

当連結会計年度（自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の 内容又は 職業	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその 近親者が議決 権の過半数を 所有している 会社等	㈱時津運送社 (注2)	福岡県 朝倉郡 筑前町	10,000	運送業	-	運送の委託・ 製品の販売	運送の委託 (注3)	4,181	支払手形・ 工事未払金 等	403
							砕石製品の 販売 (注3)	7,458	受取手形・ 完成工事未 収入金等	486

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれております。
 2. 株式会社時津運送社は、当社取締役原野繁實の近親者が株式の過半数を所有しております。
 3. 砕石運送及び砕石製品の取引条件は、一般取引先と同様の条件によっております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

当連結会計年度において、重要な関連会社は朝倉生コンクリート株式会社であり、その要約財務情報は下記のとおりであります。

(単位：千円)

	朝倉生コンクリート株式会社	
	前連結会計年度	当連結会計年度
流動資産合計	962,987	999,310
固定資産合計	229,533	218,179
流動負債合計	114,204	147,542
固定負債合計	239,106	208,049
純資産合計	839,210	861,897
売上高	857,032	786,057
税引前当期純損益金額	67,297	39,852
当期純損益金額	46,085	27,187

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
1株当たり純資産額	3,294.95円	3,779.96円

	前連結会計年度 (自 平成28年 7月 1日 至 平成29年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 7月 1日 至 平成30年 6月30日)
1株当たり当期純利益	214.00円	510.68円

- (注) 1. 当社は、平成30年1月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益を算定しております。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 7月 1日 至 平成29年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 7月 1日 至 平成30年 6月30日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	134,935	321,984
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	134,935	321,984
普通株式の期中平均株式数(株)	630,527	630,501

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,511,941	1,512,290	0.9	-
1年以内に返済予定の長期借入金	102,274	131,201	0.8	-
1年以内に返済予定のリース債務	8,823	6,878	2.0	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	346,984	354,114	0.7	平成31年～平成35年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	15,350	8,472	1.9	平成31年～平成32年
その他有利子負債	-	-	-	-
計	1,985,374	2,012,956	-	-

- (注) 1. 借入金の「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
 2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を利息法により各連結会計年度に配分しているものについて期末日現在の「利率」及び「当期末残高」により算定(加重平均)しております。
 3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	123,138	115,182	74,561	41,233
リース債務	5,897	2,574	-	-

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	1,276,191	2,770,824	4,151,408	5,532,531
税金等調整前四半期(当期)純利益金額(千円)	74,568	248,932	476,244	572,188
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額(千円)	40,158	151,152	287,178	321,984
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	63.69	239.73	455.47	510.68

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額(円)	63.69	176.04	215.74	55.20

(注) 当社は、平成30年1月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っており、当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年6月30日)	当事業年度 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	1 450,823	1 363,876
売掛金	6,358	5,650
立替金	1,928	976
前払費用	1,909	1,942
未収入金	3 131,443	3 317,910
関係会社短期貸付金	87,156	108,819
繰延税金資産	3,905	6,494
流動資産合計	683,525	805,669
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,008,492	1,010,799
減価償却累計額	793,218	805,082
建物(純額)	1 215,273	1 205,717
構築物	476,389	476,389
減価償却累計額	355,645	365,199
構築物(純額)	1 120,744	1 111,190
機械及び装置	4,926,222	5,031,949
減価償却累計額	4,433,739	4,497,854
機械及び装置(純額)	1 492,483	1 534,095
車両運搬具	81,042	61,346
減価償却累計額	79,968	56,268
車両運搬具(純額)	1,073	5,077
工具器具・備品	51,558	51,558
減価償却累計額	47,362	48,949
工具器具・備品(純額)	4,196	2,608
土地	1 755,826	1 791,050
立木	26,898	23,578
リース資産	29,142	29,142
減価償却累計額	10,312	15,935
リース資産(純額)	18,829	13,206
有形固定資産合計	1,635,325	1,686,524
無形固定資産		
採石権	12,666	12,666
電話加入権	2,469	2,469
無形固定資産合計	15,135	15,135
投資その他の資産		
投資有価証券	1 126,361	1 130,451
関係会社株式	876,823	861,823
出資金	455	455
従業員に対する長期貸付金	3,723	4,971
関係会社長期貸付金	414,535	454,921
破産更生債権等	31,889	31,889
差入保証金	210	210
保険積立金	186,241	199,804

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年6月30日)	当事業年度 (平成30年6月30日)
長期前払費用	11,653	14,559
会員権	12,002	12,002
信託受益権	70,000	70,000
その他	88,043	83,664
貸倒引当金	457,120	497,507
投資その他の資産合計	1,364,817	1,367,245
固定資産合計	3,015,279	3,068,905
資産合計	3,698,804	3,874,575
負債の部		
流動負債		
短期借入金	1 1,450,000	1 1,450,000
1年内返済予定の長期借入金	1 100,335	1 129,098
リース債務	6,063	6,184
未払金	3 49,490	3 59,754
未払費用	4,875	12,130
未払法人税等	72,880	165,789
前受金	38	-
預り金	1,664	2,852
賞与引当金	312	463
流動負債合計	1,685,659	1,826,272
固定負債		
長期借入金	1 343,916	1 353,028
リース債務	14,656	8,472
退職給付引当金	13,644	12,648
役員退職慰労引当金	31,826	34,087
長期預り敷金	4,729	4,063
債務保証損失引当金	53,799	52,400
関係会社事業損失引当金	10,764	38,481
繰延税金負債	3,315	6,075
固定負債合計	476,650	509,256
負債合計	2,162,310	2,335,528
純資産の部		
株主資本		
資本金	942,950	942,950
資本剰余金		
資本準備金	235,737	235,737
その他資本剰余金	358,820	358,820
資本剰余金合計	594,558	594,558
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	31,686	28,223
利益剰余金合計	31,686	28,223
自己株式	35,728	35,785
株主資本合計	1,533,467	1,529,946
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,026	9,099
評価・換算差額等合計	3,026	9,099
純資産合計	1,536,493	1,539,046
負債純資産合計	3,698,804	3,874,575

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当事業年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
売上高		
不動産事業収入	30,522	31,012
発電事業収入	52,091	50,293
関係会社経営管理料	1 203,590	1 280,590
売上高合計	286,204	361,896
売上原価		
不動産事業売上原価	19,182	21,732
発電事業原価	26,786	25,531
売上原価合計	45,968	47,264
売上総利益		
不動産事業総利益	11,340	9,279
発電事業総利益	25,305	24,762
関係会社経営管理利益	203,590	280,590
売上総利益合計	240,235	314,632
販売費及び一般管理費		
役員報酬	12,500	15,450
従業員給料手当	40,403	58,450
賞与引当金繰入額	312	463
役員退職慰労引当金繰入額	1,724	2,461
退職給付費用	2,219	819
法定福利費	9,600	12,295
福利厚生費	3,300	3,139
修繕維持費	272	141
事務用品費	3,289	3,113
通信交通費	6,946	10,684
水道光熱費	1,373	1,450
広告宣伝費	353	455
交際費	2,080	3,118
寄付金	2,760	6,355
減価償却費	10,083	9,320
租税公課	15,845	20,772
諸会費	1,557	2,394
保険料	3,453	3,496
事務委託費	32,145	34,447
雑費	9,011	13,947
販売費及び一般管理費合計	154,791	201,138
営業利益	85,444	113,493

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当事業年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
営業外収益		
受取利息	1 3,349	1 3,616
受取配当金	3,647	3,962
固定資産賃貸料	1 7,215	1 41,911
債務保証損失引当金戻入額	-	1,398
関係会社事業損失引当金戻入額	35,584	-
その他	3,960	2,472
営業外収益合計	53,756	53,362
営業外費用		
支払利息	17,387	14,736
貸倒引当金繰入額	1 27,983	1 40,386
その他	228	0
営業外費用合計	45,599	55,122
経常利益	93,600	111,732
特別利益		
固定資産売却益	2 3,999	2 6,058
投資有価証券売却益	2,499	-
特別利益合計	6,499	6,058
特別損失		
固定資産売却損	-	3 263
投資有価証券売却損	103	-
投資有価証券評価損	1,400	4,184
関係会社株式評価損	-	15,000
債務保証損失引当金繰入額	16,241	-
関係会社事業損失引当金繰入額	-	27,717
減損損失	15,373	-
特別損失合計	33,118	47,166
税引前当期純利益	66,982	70,625
法人税、住民税及び事業税	38,202	57,244
法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額	1,603	39
法人税等調整額	1,303	2,030
法人税等合計	35,295	55,173
当期純利益	31,686	15,452

【不動産事業原価明細書】

		前事業年度 (自 平成28年7月 1日 至 平成29年6月30日)		当事業年度 (自 平成29年7月 1日 至 平成30年6月30日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
経費		19,182	100	21,732	100
計		19,182	100	21,732	100

(注) 経費のうち主なものは次のとおりであります。

科目	前事業年度	当事業年度
修繕費	5,027千円	8,412千円
減価償却費	4,286	4,077

【発電事業原価明細書】

		前事業年度 (自 平成28年7月 1日 至 平成29年6月30日)		当事業年度 (自 平成29年7月 1日 至 平成30年6月30日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
経費		26,786	100	25,531	100
計		26,786	100	25,531	100

(注) 経費のうち主なものは次のとおりであります。

科目	前事業年度	当事業年度
租税公課	1,911千円	1,805千円
減価償却費	24,099	22,639

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日）

(単位：千円)

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	942,950	235,737	480,836	716,574	122,015	122,015	35,728	1,501,780	
当期変動額									
欠損填補			122,015	122,015	122,015	122,015		-	
当期純利益				-	31,686	31,686		31,686	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	122,015	122,015	153,702	153,702	-	31,686	
当期末残高	942,950	235,737	358,820	594,558	31,686	31,686	35,728	1,533,467	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	29,030	29,030	1,472,749
当期変動額			
欠損填補		-	-
当期純利益		-	31,686
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	32,057	32,057	32,057
当期変動額合計	32,057	32,057	63,744
当期末残高	3,026	3,026	1,536,493

当事業年度（自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日）

（単位：千円）

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	942,950	235,737	358,820	594,558	31,686	31,686	35,728	1,533,467	
当期変動額									
剰余金の配当					18,915	18,915		18,915	
当期純利益					15,452	15,452		15,452	
自己株式の取得							56	56	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	3,463	3,463	56	3,520	
当期末残高	942,950	235,737	358,820	594,558	28,223	28,223	35,785	1,529,946	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	3,026	3,026	1,536,493
当期変動額			
剰余金の配当		-	18,915
当期純利益		-	15,452
自己株式の取得		-	56
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6,072	6,072	6,072
当期変動額合計	6,072	6,072	2,552
当期末残高	9,099	9,099	1,539,046

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 当社の碎石工場に係る有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

(2) 碎石工場を除く有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)及び平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 10年～50年

碎石製造設備に係る機械装置 12年

その他の機械装置及び運搬具 2年～8年

(3) 採石権については生産高比例法によっております。

(4) 長期前払費用については定額法によっております。

(5) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

期末日現在に有する債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額基準に基づいて計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づく簡便法を適用しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(5) 債務保証損失引当金

債務保証に係る損失に備えるため、被保証会社の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

(6) 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業に係る損失に備えるため、当該関係会社の財政状態等を勘案し、必要と認められる額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(2) 連結納税制度

連結納税制度を適用しております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年6月30日)		当事業年度 (平成30年6月30日)	
現金預金	101,176千円	千円	101,198千円	千円
建物	152,266	(22,606)	144,010	(21,071)
構築物	67,426	(67,426)	63,519	(63,519)
機械及び装置	74,074	(74,074)	148,968	(148,968)
土地	670,158	(235,057)	670,158	(235,057)
投資有価証券	12,264		11,923	
計	1,077,368	(399,165)	1,139,779	(468,617)

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年6月30日)	当事業年度 (平成30年6月30日)
短期借入金	1,450,000千円	1,450,000千円
長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)	444,251	482,126
計	1,894,251	1,932,126

上記のうち()内書は工場財団抵当権を示しております。

2 保証債務

次の関係会社等について、金融機関からの借入等に対し債務保証及び保証予約を行っております。

	前事業年度 (平成29年6月30日)	当事業年度 (平成30年6月30日)
株式会社才田組の工事契約に係る 契約履行保証	249,906千円	130,619千円

3 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成29年6月30日)	当事業年度 (平成30年6月30日)
流動資産		
未収入金	129,240千円	313,480千円
流動負債		
未払金	12,045	13,053

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当事業年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
経営管理料	203,590千円	280,590千円
受取利息	2,698	3,035
固定資産賃貸料	1,888	2,278
貸倒引当金繰入額	27,983	40,386

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当事業年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
機械及び装置	3,999千円	58千円
車両運搬具	-	5,999
計	3,999	6,058

3 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当事業年度 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
機械及び装置	- 千円	263千円
計	-	263

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式852,873千円、関連会社株式8,950千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式867,873千円、関連会社株式8,950千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年6月30日)	当事業年度 (平成30年6月30日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	824千円	267千円
貸倒引当金	138,417	150,646
債務保証損失引当金	16,290	15,866
関係会社事業損失引当金	3,259	11,652
関係会社株式	152,357	156,899
投資有価証券	15,923	17,190
会員権	16,412	16,412
出資金	2,846	2,846
役員退職慰労引当金	9,637	10,321
賞与引当金	95	141
その他	27,654	31,369
繰延税金資産小計	383,718	413,614
評価性引当額	378,988	406,852
繰延税金資産合計	4,730	6,761
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	4,139	6,342
繰延税金負債合計	4,139	6,342
繰延税金資産純額	590	418

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年6月30日)	当事業年度 (平成30年6月30日)
法定実効税率 (調整)	30.69%	30.69%
住民税均等割	1.46	1.38
留保金課税	5.61	3.69
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.94	3.36
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.46	0.46
過年度法人税等	2.39	0.06
評価性引当額	14.14	39.88
その他	0.29	0.37
税効果会計適用後の法人税等の負担率	52.69	78.12

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】
 【有価証券明細表】
 【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他 有価証券	(株)ふくおかフィナンシャルグループ	124,825	69,527
		第一生命ホールディングス(株)	7,600	15,017
		(株)西日本フィナンシャルホールディングス	10,400	13,468
		(株)筑邦銀行(注)	5,678	11,923
		(株)富士ピー・エス	11,000	8,679
		(株)久大生コン	100	5,000
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	4,000	2,524
		甘木鉄道(株)	40	2,000
		(株)正興電機製作所	1,651	1,807
		(株)みずほフィナンシャルグループ	2,700	503
	その他3銘柄	9,200	0	
		計	177,194	130,451

(注) (株)筑邦銀行は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残 高(千円)
有形固定資産							
建物	1,008,492	2,307	-	1,010,799	805,082	11,863	205,717
構築物	476,389	-	-	476,389	365,199	9,553	111,190
機械及び装置	4,926,222	189,744	84,017	5,031,949	4,497,854	147,427	534,095
車両運搬具	81,042	8,504	28,200	61,346	56,268	4,500	5,077
工具器具・備品	51,558	-	-	51,558	48,949	1,587	2,608
土地	755,826	35,223	-	791,050	-	-	791,050
立木	26,898	-	3,319	23,578	-	-	23,578
リース資産	29,142	-	-	29,142	15,935	5,623	13,206
有形固定資産計	7,355,571	235,779	115,536	7,475,814	5,789,290	180,556	1,686,524
無形固定資産							
採石権	12,666	-	-	12,666	-	-	12,666
電話加入権	2,469	-	-	2,469	-	-	2,469
無形固定資産計	15,135	-	-	15,135	-	-	15,135

(注) 1. 機械及び装置の当期増加額の主なものは、砕石事業用機械装置186,544千円であります。
 2. 機械及び装置の当期減少額の主なものは、砕石事業用プラント除却51,317千円であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	457,120	40,386	-	-	497,507
賞与引当金	312	463	312	-	463
役員退職慰労引当金	31,826	2,061	200	-	34,087
債務保証損失引当金	53,799	-	-	1,398	52,400
関係会社事業損失引当金	10,764	27,717	-	-	38,481

(注) 債務保証損失引当金の当期減少額(その他)のうち、1,398千円は関係会社事業損失引当金の当期増加額への振替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	7月1日から6月30日まで
定時株主総会	9月中
基準日	6月30日
剰余金の配当の基準日	12月31日、6月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。なお、電子公告は、当社のウェブサイトに掲載しております。 (ウェブサイトのアドレス: http://www.saita-hd.co.jp/)
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第62期）（自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日）平成29年9月28日福岡財務支局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年9月28日福岡財務支局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第63期第1四半期）（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）平成29年11月14日福岡財務支局長に提出

（第63期第2四半期）（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）平成30年2月13日福岡財務支局長に提出

（第63期第3四半期）（自 平成30年1月1日 至 平成30年3月31日）平成30年5月14日福岡財務支局長に提出

(4) 臨時報告書

平成29年10月3日福岡財務支局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年 9月27日

サイタホールディングス株式会社

取締役会 御中

如水監査法人

指 定 社 員 公認会計士 松尾 拓也 印
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 内田 健二 印
業 務 執 行 社 員

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているサイタホールディングス株式会社の平成29年7月1日から平成30年6月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、サイタホールディングス株式会社及び連結子会社の平成30年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、サイタホールディングス株式会社の平成30年6月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、サイタホールディングス株式会社が平成30年6月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1．上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年 9月27日

サイタホールディングス株式会社

取締役会 御中

如水監査法人

指 定 社 員 公認会計士 松尾 拓也 印
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 内田 健二 印
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているサイタホールディングス株式会社の平成29年7月1日から平成30年6月30日までの第63期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、サイタホールディングス株式会社の平成30年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。